



“廃校施設”を
新たな教育・人づくり・まちづくりの拠点に
～カタショー・ワンラボ～

株式会社マキノハラボ
代表取締役 浅野 肇史

少子化による児童生徒の減少により

約 **450** 校

年間「廃校」になる数

静岡県中部

海と茶畑のまち 牧之原

人口：約4万人

No.1 牧之原大茶園 日本
有数の茶産地

Ocean サーフィンの聖地

人口減 消滅可能性自治体
に分類



課題：コミュニティの「空洞化」



牧之原市立片浜小学校

「学校がなくなるって、町が終わるみたいで寂しい」





「誰もいなくなった場所」を
「人が行き交う楽しい場所」へ

牧之原市との賃貸借契約のもと2018年より
株式会社マキノハラボ

カタショー・ワンラボ運営開始

マキ
ラボ



多面的な取組み

マキ
ラボ

事業概要

①会議室・ワーケーション

課題:遊休施設の増加



多目的に利用可能な施設

②宿泊・研修

課題:地域経済の減退



遊んで泊まれる小学校
カタショー

③教育・多文化共生

課題:教育環境の欠如



- ・ 外国籍児童へ日本語等の教育
- ・ 全小中学校へIT・生成AI支援

④スマート農業

課題:農業の高齢化・衰退



茶農家の負担軽減、
売り上げ向上



STEP1: 入口

「来る理由」をつくる

まずはイベントで心理的ハードルを下げる

イベント・音楽・食
ネガティブなイメージを払拭

「まずは、行ってみよう」
という動機づけ

✓ 集客実績：最大 3,000人/回



STEP2: 滞在

非日常が体験が、新たな関係人口を創る

ホテル業 遊んで泊まれる小学校カタショー 「小さく始める」



「全力で遊ぶ廃校ホテル」で非日常体験
企業研修・合宿の拠点化
関係人口の深化

年間宿泊者数

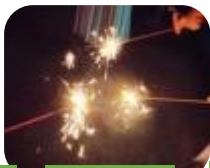
6,500人



給食



ドローン記念撮影



花火



謎解き肝試し

STEP2: 滞在

非日常が体験が、新たな関係人口を創る

ホテル業 遊んで泊まれる小学校カタショー 「小さく始める」



「全力で遊ぶ廃校ホテル」で非日常体験

企業研修・合宿の拠点化

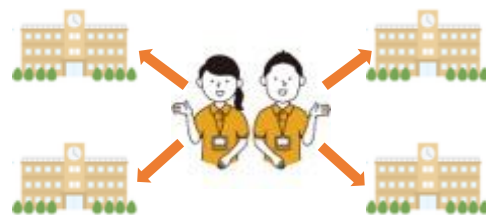
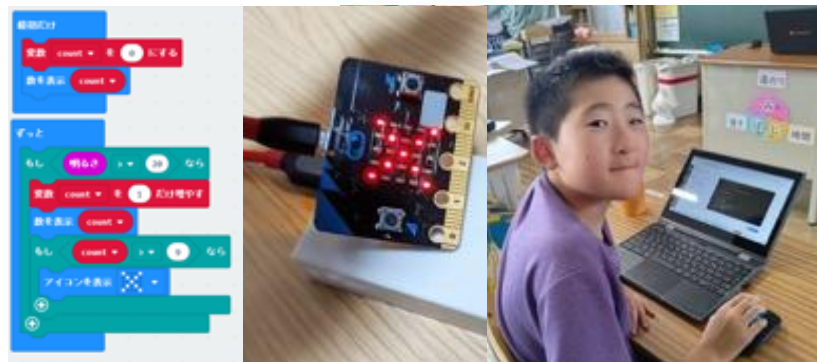
関係人口の深化

年間宿泊者数

6,500人

STEP3: 教育 (多文化共生・IT)

廃校を、未来へつながる「教室」へ



STEP4: 日常

地域と共に歩む施設

芝生化協力 住民
約200名
(JFAの事業を活用)



会議室・コワーク
ほぼ**毎日**の利用



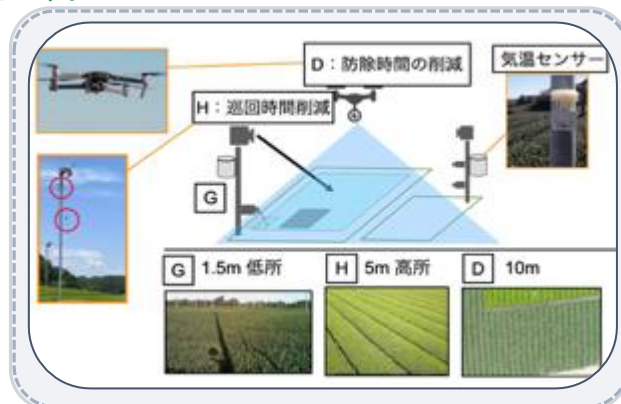
年間延べ施設利用者
40,000人

STEP5: 産業・交流

産業と交流の拠点、持続可能な地域へ

地域の基幹産業 「茶業」への貢献

スマート農業（ドローン活用・AIカメラ）
作業負担軽減、売上向上に寄与



地域の混ざる場所 「だれでも未来食堂」

子ども食堂（2025年5月～） 毎回50名定員
地域の高齢者と外国籍ルーツ子どもたちの交流



原点：JICA海外協力隊の経験から ルワンダで物理教師



「ない」から「足る」
溢れる可能性



恐れる失敗は無い
日本を元気にする挑戦を